

開成学園バレーボール部

草創の記

開成学園バレーボール部草創の記



(開成学園創立 85 周年記念バックル：昭和 31 年)



(バレー部バッジ：昭和 25 年～30 年)

いずれも小西先輩ご提供

2015年6月

開成学園バレーボール部OB会

目次

出版にあたって	開成学園バレーボール部OB会会長 桑田起義……………01
出版にあたって	野水 善三（昭和26年卒）……………02
「開成学園バレー部の草創期を語る」座談会……………03	吉村先輩、渡辺先輩、野水先輩、近藤先輩（以上昭和26年卒）
	新井先輩(昭和27年卒)
	進藤先輩、小西先輩(昭和30年卒)
	佐藤(昭和40年卒)
	宮先生（平成9年卒）
	岡田（平成24年卒）
写真で見る草創期……………16	
寄稿	
開成バレー部 創部70周年に寄せて	大瀧 利尚（昭和25年）……………25
開成バレー部の思い出	塚田 謙仁（昭和26年）……………27
バレー部の思い出	渡辺 泰 （昭和27年）……………29
編集後記	佐藤 勇 （昭和40年）……………30

（注：ページは「草創の記」出版時の表記です。70年史のページとは異なっています。）

出版にあたって

開成学園バレーボール部OB会会長 桑田起義

顧問の先生方、OB 並びに現役の皆さん、2017 年に開成バレー部創部 70 周年を迎えますがこれもひとえに日頃の皆さんの地道な一日一日の練習の積み重ねの結果であることを改めて感慨深く振り返ると共に先人のバレー部創設と何世代もの力強いリレーによりこれだけの歴史を築くまでに至ったことにバレー部関係者全員を代表して深い敬意と感謝を申し上げます。

今回、佐藤勇先輩のご提唱により 70 周年に向けてバレー部部史を製作することになりましたがそれに先立ち草創期の偉大な先輩がたとの座談会が佐藤先輩、宮先生、岡田幹事長のご尽力により昨年 11 月 13 日に(S26 卒)吉村・渡辺・野水・近藤各先輩(S27 卒)新井先輩(S30 卒)進藤・小西各先輩をお迎えして開成で行われ本当に多くの貴重なお宝話を伺うことができました。これらはまさに開成バレー部が産声をあげて世に出た開成バレー部草創物語とも言うべきものです。

写真では昨今の厳しい受験をくぐり抜けた青白い秀才とは似ても似つかぬ野性的な健康男児が下着のランニングシャツと見まがう質素なユニフォーム姿で真面目な顔で写っていますが回想談では部員が少ないにも拘わらず相当な強豪チームだったなど想像もつかない談話が聞かれ、大いに感心させられました。

その後何世代にもわたり部活動が引き継がれ、部員の汗と涙と喜び・悲しみを全てまとめて包み込んだバレー部の歴史が今日残ったと言えます。

世代ごとに部活に対する姿勢、練習方法と成果も様々でまた年によって部員数が大きく変動してきたこともとてもユニークないかにも自由奔放な開成バレー部ならではの持ち味でしたが、この 20 年間は高校チームは常に関東大会に手が届く位置にまでレベルアップしていますし、東京都選抜チームに選ばれるような大型選手も部員の中に混じるようになりました。更に科学的練習方法にも磨きがかかり最新のサーブマシンの導入もこの春実現し、今後の現役の一層の活躍が期待されますし開成バレー部の益々の繁栄が強く感じられます。

これら開成バレー部の歴史はまたご指導いただいた顧問の先生がた即ち初期の岩谷先生、伊藤先生、上迫先生から中村先生そして現在の栗原先生／宮先生／須藤先生／奥山先生による強力な部活動牽引の賜物であります。

今後全ての世代の談話・記録を吸い上げて開成バレー部創部 70 周年記念にふさわしい部史にしたいと思いますが先ず草創期の大先輩の思いのたけをまとめて編集させていただきましたので皆さんぜひご一読のうえ 70 年前の熱い思いを感じ取っていただけたら幸いです。

出版にあたって

野水 善三(昭和 26 年卒)

戦後 70 年の節目を迎え、我が国の歴史認識が改めて問い直されています。

日本のバレーボール界も、昭和 20 年 11 月に日本排球協会が復活して、本年で 70 年を迎えようとしています。

占領政策により、剣道・柔道等の武道が禁止され、代わりに球技を始めとするスポーツの普及・振興が喧伝されました。施設・用具が簡単・安価で、誰でも手軽にプレー出来、気軽にゲームに参加出来ることから、昭和 21 年から 22 年にかけて、全国的にバレーチームの復活・創設の流れが澎湃^{ほうはい}として興りました。

開成学園バレー部も、時期を同じくして、昭和 22 年に正式に創部されました。(因みに、昭和 22 年学制改革が施行され、新制中学・新制高校に区分されましたが、バレー部としては、当時全く意識されませんでした。)

創部の労をとられたのは、岩谷先生、出野寛二先輩(昭和 24 年卒)であったと推測されますが、お二方共既に鬼籍に入られ、その辺の経緯は不詳です。

昭和 26 年卒組が中心メンバーであったことは確かですが、「其の数、寂寥々、其の技、未だ幼にして稚々」というスタートでした。

創部 70 年記念の前段として、「草創期を語る」座談会を企画して頂き、脚腰の立つ老兵共が集まり、昔噺に耽らせて頂きました。後刻、議事録を読ませて頂きました処、本企画の趣旨である「草創期の記録」からは可成り逸脱し、気儘な放談に流れてしまったことを知らされ、忸怩たる想いを禁じられません。関係者各位に、心からお詫びと感謝の気持ちを捧げる次第です。

創部 70 年記念に当たって、正鵠を射た部史が編纂されることを願って止みません。

70 年の歴史を積み重ね、開成バレー部も人的にも設備的にも、格段の進歩を遂げられて来たことに敬意を表すると共に、草創期に培われたチームワークや協力の精神、仲間同志のわかり合いの重要性が、歴史の底流に継続・強化されていることを祈念して止みません。

尚、本冊子に寄稿頂いた、大瀧利尚先輩(昭和 25 年卒)が、本年 3 月 7 日に病没されました。

最後迄、開成バレー部を愛し続けておられた由、心からご冥福をお祈り申し上げます。

「開成学園バレー部の草創期を語る」座談会

2014年11月13日 15:00~17:00

開成中学校 会議室

参加者：昭和26年卒：吉村先輩、渡辺先輩、野水先輩、近藤先輩

昭和27年卒：新井先輩

昭和30年卒：進藤先輩、小西先輩

司会：昭和40年卒 佐藤

開成バレー部顧問：宮先生（平成9年卒）

VTR撮影：岡田OB会幹事長（平成24年卒）



後列：宮先生・近藤（S26）・野水（S26）・佐藤（S40）・小西（S30）・進藤（S30）

前列：新井（S27）・吉村（S26）・渡辺（S26）（敬称略）

司会（佐藤（S40））

今日は大先輩方にお越しいただきまして、ありがとうございます。

開成バレー部は創部が昭和22年ですから、3年後に創部70年を迎えようとしています。

このように伝統にある部なのですが、その歴史を何も記録として残していません。皆様がお元気なうちに創部の時の様子を記録として留めて、後輩たちに伝えていきたいと思い、先輩方にお集まりいただき、座談会という形で記録するという企画をたてさせていただきました。

今日お集まりの方の中で最も古い昭和26年卒の方々は、バレー部ができたときから関わっておられた方だと思いますので、その当時の様子をお話しいただきたいと思います。

まず自己紹介をお一人ずつお話しただきたいと思います。

1. 自己紹介

吉村(S26)

26年卒（ここでいう年は全て昭和です）吉村です。コーチも何もいない開成バレー部でした。ある日突然強くなったということで、バレーに強い関心があったというか、もっとバレーを続けたいという気持ちで大学に入って4年間、大変強いチームでしたがそこでHC（ハーフセンター）を少しだけやっていました。

野水(S26)

同じく26年卒の野水です。ただ私は戦時中疎開をしまして、疎開から帰ってきたのが22年の9月で、中学3年生の2学期から開成に転入してきました。私のバレー歴は、21年に戦争が終わりまして、疎開先の新潟県の三条中学でバレー部ができて、そこでバレーをはじめました。三条中は北陸数県では敵なしと言われたほど強いチームでして、私が出た後に福岡国体で準優勝したようなチームで、かなり強かったチームです。そういうところから来て開成に入って、私はあまりバレーボールが好きじゃなくて、サッカーがやりたいくて、前の学校はサッカー部がなくて、開成に来たらサッカー部があるということで、なんとかサッカー部に入ろうと思って、サッカーの練習をながめていたんです。そのそばでバレーボールをいじくっている人たちがいて、あまりのへたさに驚きまして、ちょっとボールが転がってきたのを触ったのが運のつきで、なんかそのままバレー部に入っちゃいました。それからずっと卒業までバレー部で過ごしたといった方が良いと思います。従いまして開成の仲間と言ってもバレー部の人たちだけで、開成の生活と言ったらバレー部の生活だけで、そんな4年間でした。

卒業して大学に行きまして、そこでもバレーをやりました。4年で卒業だったのですが、我々の代のレギュラーがごそっと抜けてしまうので、留年してもう一年バレーをやりました。卒業して会社に入りまして、北海道の金山に行ったのですが、そこでもバレー部を作りまして、北海道で優勝するまでにしました。それから東京に帰ってきましたが、東京でもバレーを続け、結局三十幾つかまでバレーをやっていました。大学の出身は東大バレー部卒で法学部は部活だと言っています。そういった人生を送ってきました。

近藤(S26)

私がバレーを始めたのは、野水が来る何か月か前です。今野水が言ったような水準ですから、バレーといっても何をやっているかわからないような状態でした。出野さんの他に二人くらい先輩がいて、バレーボールで遊んでいた。野水とか大滝さん(S25)が来てからようやくチームとして動けるようになったというのが実情だろうと思います。私はアルバイトで本屋さんに手伝いに行っていたりして、十分には稽古はできなかったんです。そのことでもみんなの足を引っ張ってしまったと思います。私のやっているのはアタックをや

る方ですから、ジャンプとかは得意なんですけど、腕はあまりコントロールがきかないんで、そう器用にやってこれたとは思っていません。ほどほどの動きしかできなかったかなという感じです。

渡辺(S26)

開成中学に入って、どこか部に入らなくちゃならない、たまたま当時先輩の方たちがかなり僕の家遊びに来ていました。来る方が、ボート部の先輩だとか、器械体操部の先輩だとかとかそういう方たちだけなんです。しょうがないボート部にでも入るかと思っていました。僕は双子なもんですから、二人ともどこか部に入ろうじゃないかと言っていたら、兄貴がおれサッカーやるよって言うんです。サッカーってどんなんだろうって思って、兄貴のやっているサッカー部を見に行ったら、隣でまああるくなってボールにじゃれ付いているグループがいて、出野さんがおられました。そこに塚田がいて、「おい渡辺やれよ」、「じゃやってみるか」っていうんで入ったら、なんせ人数が少ないしね、やることといたら、サークルパスっていうのか丸くなってパスする、それだけ。これでもやらないよりは良いだろうってくらいです。そのうちに試合やろうっていうんですが、試合っていったって、人数が揃わないわけですよ、背のでかいやつを探そうというので、清っていうの（あとで陸上競技に行ったんですが）、これが背が高い、近藤これも背が高い、高橋くんというのがいて、これも背が高い、なんせ人数だけ集めようじゃないかっていうんで、そういう連中を集めて試合をやった。そのあと一期下に岡部・渡辺・永峰・新井・佐伯この5人が入ってきて、これで一応人数が揃ったなと。それに野水師匠がいたしね、こわかったんだな。これが運動部かと思うくらい怖かった。それから高2になった時に大滝さん(S25)が来られて本格的なバレーボールというのかな、が始まった。大滝さんが来て、岡部が入って野水がいて、永峰がいて、そうしてようやくチームの形ができていったんです。

当時駒込高校グラウンドで荒川区民大会をやったりして、そこで優勝をしたとか。荒川区では結構強い方に居た。

開成が準決勝、ベスト4くらいまで行っているんですよ。その時にバレーボールの仲間では開成の評判が高かった。成蹊大学に入って、バレー部に入ったら、その時の学連委員の先輩が各大学の有望新人の特集に「渡辺のことを紹介しといたぞ」と言われ、その時の記事にすごくまい新人が入ったと書かれてしまって。成蹊大学のバレー部に入ったら、3人しかいなくて、僕たちより1期下から人数が増えた。そのころ成蹊は4部、野水のいた東大は2部、永峰(S27,東京水産大)も2部(?)、大学2年の時からキャプテンをやったけど、野水も東大、永峰も東京水産大、大滝さんも横浜国大でそれぞれ活躍しているし、と開成バレー部はすげえんだな、なんて自慢話をしてた。開成でもそうだったし、成蹊でもそうで、バレー部のスタートの時に常に関わって、一生懸命人を集めて、試合にこぎつけたという記憶があります。そんなバレーの経歴でした。

新井(S27)

私が入ったのは中学3年の時で、3年生に小野くんというのが隣の席にいて、「お前やれよ」

と言われて、初めて行って最初はかっこも何もなかったけど、それでやったのが最初ですね。中学校 2 年の時、私は病気をしていましたから、ずっと休んでいて、ようやく出てきてしばらくしてからやりだした。(渡辺：要するに誰でもよかったんだよね、その当時は。)その後は可もなく不可もなく、永峰のかげに隠れて「ボール来ないように、来ないように」って感じた記憶がある。だけど好きは好きでした、やっぱり。12 時になると早く飯食ってよく練習やったもの。(近藤：割と器用だったんじゃないの) いや、みんなに助けられて、細々とやってたんじゃないの、自分じゃそう思ってますよ。私は大学に入らないで近藤さん(S26)と同じ富士銀行に直接入って、富士銀行のバレー部で 5 年くらいやってたかな、その後結婚してやめて、というふうな経歴ですかね。

小西(S30)

新井さんからちょっと跳ぶわけですけど、その間に 29 年にお一人小林さんという方がおられたんです。30 年は今日来ているのは私と進藤さんだけですが、他に 4~5 人います。私が入ったのは確か中学 2 年の時で、1 年から 2 年になる時に 10cm 背が伸びたんです。背が高かったから目に留まったんじゃないかと思うんです。それから 1cm も伸びていません。最近はずいぶん少なくなる一方で。それで誘われてバレーを始めて、その後 26 年の先輩が抜けた年の穴をその時入った 4~5 人で埋めてたんですよ。その前にも中学生で高校の試合に出ていたんです。(吉村：関東選手権の時だね) 27 年に高校になって、揺籃期の強かった時代から愕然とするくらい力が落ちてましてね、あんまり勝った記憶がないんです。私自身はジャンプ力が今一つでしたので、野水さんの弟さん(野水清(S30))がトスを上げてくれるんですが、スパイクをよくミスっていましたから。バレー歴は開成だけです。進学した京都大学で部に入ってみましたが、当時の下宿生活は、食事が不十分で始終お腹を空かしていましたから、永く続かず、1 シーズンだけで辞めてしまいました。京大には 27 年卒の渡辺泰さんが居られ、私と入れ違いに卒業されました。京大を受験するときには渡辺さんの下宿に泊ってもらったりしてお世話になりました。数年前の OB 会会報にお名前は忘れましたが、京大に入学したと近況報告が載っていました。バレー部 OB から京大は渡辺泰先輩が先駆けです。(新井：昭和 24 年か 25 年で当時は食べ物が本当になかった時代でした。)

進藤(S30)

私は高校からバレー部に入ったんです。今小西が話したように S26 の先輩が抜けて人数が足りなくなり、チームができないということで、私京成で通っていたんですけど、我々の同期で永峰というのが昭和 20 年代で 180cm あって、当時で言えば大男だった、それと背はそんなに大きくはなかったんですが、ジャンプ力のあった寺島(彼は陸上競技部で杯ジャンプの選手も兼ねていた)と、宗近と 3 人くらいが市川から通っていたんです。電車の中で「こんどチームができないから、バレー部に来い、バレー部に来い！」って引っ張られて、バレー部に入ったんです。私は体が小さいものですから、当時の 9 人制だから勤まったようなもので、バックをやっていたんです。当時はアンダーパスをやるとほとんどド

リブルを取られるんです。ボールの下に潜り込んでオーバーパスでレシーブをやらなくちゃいけないのですが、体が小さかったので、球の下に潜り込んでパスをするということではできたんです。私たちが高校になった時は昭和27年で、その時に日本が戦後初めて参加したヘルシンキオリンピックに体操選手として出場し、床運動で銀、跳馬で銅を取った上迫先生という方が開成にお見えになって、その先生がバレー部の顧問になられた。それでその先生にしごかれたというか、指立て伏せをやらされたのを覚えていますね。上迫先生がバレー部に来て練習を見て最初に言ったのは、その当時うさぎ跳びというのを良くやっていたんですが、うさぎ跳びなんてというのは、膝に対して百害あって一利なしだと、うさぎ跳びは絶対やっちゃいけない、ということ言われたんです。合宿になると当時那古船形だったかな、うさぎ跳びの代りに砂浜を走れと言われ、砂浜を走らされました。砂浜も波打ち際の湿ったところは走り易いんですが、ちょっと外れると砂に足が潜って、うんと足に負担がかかってきつかったのを覚えています。一昨日野水清くんから（同期なんです）電話がありまして、「今日は参加できないけれど、練習でうさぎ跳びがきつかった。階段をまともに下りられなくて、前を向いて下りると、そのまま前に転がってしまうのではないかと心配で、後ろ向きに階段を歩いたことを覚えている」と言っていました。小西くんからも話がありましたが、中学3年の時に野水、永峰、尾賀、小西の4人が高校の試合に出ていたんです。私が高校に行って新人戦に出たときに、審判団が揉めてんです。何だと思ったら、「あの連中は去年も出ている、あれは新人じゃない」というんです。その決着がどう付いたかは覚えてないんですが、そういったことが印象に残っています。大学行ってからはバレーをやっていません。

宮(H9)バレー部顧問

他校で教員の経験を積みさせていただいた後、5年前に開成の教員となりまして、今はバレー部の顧問を務めさせていただいております。本日はみなさまの貴重なお話を楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

岡田(H24)OB 会幹事長

今日はカメラなどを担当させていただいておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

2. 創部当時の様子

司会:

バレー部ができたときの話をお聞かせください。一番古くからバレー部に関わっていたのはどなたですか？

渡辺:

吉村だよ。

吉村:

私の前にいたんですよ、長谷川ダボさん。それから上では出野さんが一番最初で、それ

から鈴木さんという人がマネージャーのような感じでした。

近藤:

出野さんとあと二人いたような気がするんですね。

吉村:

それから何となく出野さん一人になっちゃったような気がする。長谷川くんという同級生がいます。私も疎開してましたから、疎開先でバレーボールをやりましたんで、なんとなくサークルパスを見て、入ったような感じだったんですけど。

司会:

疎開しておられたというのは、何年から何年までだったんですか？

吉村:

中学2年（昭和21年）の1学期に戻ってきた。学校そのものが無いようなものでしたから。

渡辺:

ここらは東京大空襲で、開成なんかも休校になっていた、みんな地方に転校していった。

野水:

それと住宅が建設制限されていて、新築はできなくて、私の場合も新潟から材料を持ってきて、移築という形で建てさせてもらったようなことでした。

それでようやく22年に戻ってきました。

渡辺:

だから中学1年に入って、そのままずっといる人は少ないですよ。

野水:

昭和20年は都内のどこの学校に願書を出しても、全部フリーパスでしたよ。日比谷だろがどこだろが、選り取り見取りだった。

渡辺:

その代り開成は厳しくってね、私が中学1年から2年になる時に俺のクラス50人だったのが25人になっていた。5組だったのが4組になっちゃった。50人以上落第している。と思ったら、また上の学年からも結構落ちてきていた。

近藤:

留年というか落第というかそういう人が結構多かったね。

渡辺:

落第というのが嫌いで、他の学校に転校していった人が多かったが、他の学校に行くとみんな10番以内なんだよね。一応それだけの素質はあったんだよね。

近藤:

あのころは結核で体を悪くして、遅れる人が結構いた。

野水:

アルバイトの人も多かったしね。新橋から銀座の間を通るとそこにたくさんクラスの人や

ら同期の人たちが露店で店出してライターの石売ったり、靴磨きしてた人もいたり。

近藤:

野水は帰ってきたのはそんなに遅い方ではなかったんじゃないかな、私も高崎に疎開して
いて、戻ってきた。

司会:

皆さんは中学は開成に入ってから疎開したんですか？

野水:

僕は小学校6年の時に行って。

新井:

僕の世代は直接入ったんですよ。戦後の21年の4月に入った。当時結構いろんな事情が
あって、人数が減ってますよ。

野水:

公立というのは旧制というのは昭和21年の入学が最後だから、そのあとは新制中学です。

渡辺:

何しろ大変な時代だった。裏の運動場だって、僕がターザンいや岩谷先生から「人数集め
てくれよ」って言うんで、みんな仲間集めて、夏場コッペパンひとつで、一生懸命あの田
端に行く坂の崖崩して、地均して作った。上のグラウンドはそのあとだった。

進藤:

上のグラウンドは私たち(30年卒)が作ったんです。体操の時間という、ほとんどグラ
ウンド作りの勤労奉仕でした。

吉村:

はじめはボールが2個か3個しか無くて、それもねちょっと楕円形になっちゃって。

野水:

当時のボールはサーブをすると破裂したりするんですよ。

渡辺:

まあいいボールなんて少ないんだよね。縫い目があって、よくボールを家に持って帰って、
修理していました。ユニフォームだってみんな家で作って、今のように美津濃だとかがあ
ったわけではないので、手作りでした。

野水:

その写真にあるのが、最初のユニフォームなんです。これはみんなでまとまって作ったも
のです。25年に作ったんです。

吉村:

その前のユニフォームの写真が、家にあるんですが、今日は持ってきていません。

野水:

私が入った時は、出野さんが大将で、ほかにみんながいて。だけどルールも知らないし、
何もわからないようだし。

近藤:

なんせ試合もしたことが無かったんだから。

野水:

円陣パスしか練習してないんですよ。それで私がチョコチョコ口を出して、誰が前衛だ、誰が中衛だ、後衛だとか。出野さんは背が高かったので前衛センター、そして他の人を割り振って。そして荒川区民大会なんかにはポツポツと出だした。まったくの素人さん相手に勝ったりして。出野さんはジャンプすると足を曲げる癖があって、ネットに足を引っかけた（FC でネットを背にしてジャンプしたので、つま先がネットに引っかかったとのこと。ネットの幅が広がったとはいえ、かなりのジャンプ力があった？）というエピソードがありました。出野さんは本当に良い方でした。（吉村：早くに亡くなってしまったのは、残念です。）

近藤:

そのあとで入ってきたのがこのメンバー（S26）なんです。そして塚田と佐藤と長谷川、あとまだいたかもしれない。（渡辺：川崎とか）

渡辺:

岡部（S27）とか永峰とかが入ってきて、強くなったんですよ。岡部とこのまえ電話で話した時、フォワードからスパイク攻撃をした先駆者なんだと自慢していた。

野水:

そんなんで荒川区の区民大会にポツポツ出るようになって、そこそこの試合ができるようになった。この辺だと聖学院、上野高校、郁文館、京華とかこんなところに練習試合で武者修行に回った。そこにある写真は最後だと思うけど、昭和 25 年の憲法大会、小山台でやった。その下にあるのが駒込高校でやった大会で、出野さん、大滝さんがいるので、オール開成かなんかで出たのかな。

吉村:

われわれは憲法大会（高校の春の東京都大会）に出るまではそんなに強くないと思っていた。ところが憲法大会で勝ち進んで、1 日目勝ち残った。そして準決勝まで行ったのかよく覚えていないけど、少し強くなった。自分たちでは、他と比較してそんなに強くないと思っていた。

渡辺:

でもね、大滝さんと野水と岡部がいて、永峰がいて、これは強力だった。（近藤：あの連中が入ってきてチームができてきたという感じだね。）塚田も言ってただけど、われわれバックやっていて淋しいんだよ。前の連中が派手なところをやってさ。塚田と「俺たちもなんかやろうよ」なんて言って、バックでセンターからレフトにトスを上げて、サーブみたいに打って。うまくいかなかったけど。でもそういう遊びができるくらい、チームにゆとりがあった。

野水:

開成は先生方も経験者が居られなかったし、だれも教えてくれる人が居ないんですよ。その時顧問は岩谷先生でしたが、マネージメントはしていただいたけど、バレーボールはノータッチだった。結局私がやるしかないもんですから、それじゃだめだと思って、私の兄が早稲田だったので、その伝手で一度だけ坪井さんというコーチに来てもらった。来てもらったけど、昔の講堂が練習場だった。トス上げれば天井に引っかかっちゃうし、設備も悪いし、報酬も出せるような状態ではないので、1回来たきりだった。専門家に習ったのはこの一回だけだな。

吉村:

いつ頃からだったかな、六大学バレーだけは見に行っていましたね

渡辺:

大学とか実業団の試合は良く見に行っていましたね。

野水:

昭和24年に大滝さんが仙台一高から転校して来られて。あの方は本当に体格からしても立派なスパイカーという方が来て（吉村：フォームもきれいだし）、ようやくバレーボールの選手らしい人が初めて入った。高3で来られて、最後の1年だけ（渡辺：ハーフレフトで東北でベストナインに選ばれた）。大滝さんが来てようやくバレーボール部になったかな、という感じです。大滝さんが高3で、われわれが高2。その下が岡部たち。その時関東大会にも出た。

野水:

関東大会が秋の修学旅行とぶつかって、関西に行っていた。会場が横浜だったので、みんな下の人をお願いして、「何とか負けないでいてよ」。そして1回戦だか2回戦まで勝っていてくれて、私ら途中横浜で途中下車して、そのまま試合場に直行して、すぐユニフォーム着て、出たんですよ。その時が準々決勝だったか、かなり上まで行った。（吉村：人数が足りないんで、中学生にも出てもらって、1日目勝ち残った）

近藤:

最後は都立城南に負けた。（松平さんの出身校）

進藤:

中3で出ていたのは、小西、野水（弟）、永峰、尾賀、この4人は中学から出ていた。

司会:

宮先生、途中でメンバー替えて良いんですか？

宮:

今ではだめです。当時は分からないですけど。

小西:

土浦で合宿したね。お米持っていった。

野水:

岩谷先生のお世話で、日体大が霞ヶ浦の予科練の跡にいた。そこで初めて土浦合宿をやった。そのときは日体大に勝っていた。合宿には鉄製のポールを2本持って電車に乗って行った。最後に土浦一高と試合をやって、手も足も出なかった。こてんぱんにやられた。

吉村:

高3の時に野さんが理科大を開成に連れてきて、外のコートで試合をした。それも開成が勝った。

司会:

その強い時代はいつくらいまで続いたんですか？

渡辺:

小西が強い時代を知ってるんだよね。強かったのは、昭和 25・26・27 年くらいかな。28 年卒の世代は部員がない。

近藤:

けどみんなバレーが好きだったんだよね。ただ、人集めに苦労したよね。好きじゃなきゃできないもの、お腹すかして。

吉村:

コートは土じゃないんだよね。岩みたいなもんで。コートは高校の正門を入った現在の体育館のある場所にあった。

進藤:

今日資料として持ってきたんですが、学校で出している『開成小誌』（昭和 63 年 4 月発行）（発行：学校法人開成学園）にバレー部の創部（学校が正式に認めた）は昭和 22 年となっています。

渡辺:

このころ強かったのは、小山台、三商、戸山。

小西:

私のところにバックルが残っていたのを持ってきました。デザインがバレーボールで、開成の創立 85 周年記念（昭和 31 年）。バッチはバレー部のもので、昭和 25 年～30 年まで学生帽に付けていました。バックル、バッチの制作の経緯は忘れませんでした。

3. バレー部の後輩たちに伝えたいこと

渡辺:

塚田の手紙に、「開成バレー部で学んだことは多いが、なんといっても大きいのは『チームワーク』の大切さ。」と書いてある。この一言に尽きるよね。

近藤:

塚田、渡辺、佐藤とか、3 人の面白いのがいてね、チームワークが良いんですよ。この 3

人揃っていると笑いが絶えないんだね。いつも笑っていた。

野水:

卒業式の日まで試合をしていた。卒業式に間に合わなくて、卒業証書をお袋が持って帰って、最後の記念写真には走り込みで、最後のクラスに入れてもらった。(吉村: 荒川区民大会かなんかだったかな。) 良くやりましたよ。

近頃気になるのは、スポーツで「楽しむ、楽しむ」って言う人がいるけど、あれだけは止めて欲しい。ゲームはやはり勝たなければならぬので、勝つためにどうするか、勝とうという気持ちがなげりゃ。やってる時に楽しむっていうのは、なんかおかしいんじゃないかなと思う。勝つっていう気持ちがまず先に出てくれないと。何で勝ったかという、技量で勝ったのではなくて、バレーボールというのはリズムのスポーツなんで、どうやって相手のリズムを崩して、こちらのリズムを保つかという、そのために渡辺くんが言うように、ギャーギャー騒ぎまくったんです。僕らの時代に勝ったのは、騒ぎまくって勝ったんです。技術で勝ったのではなく、口で勝ったんです。

現役諸君には、末永くバレーボールをやって欲しいと思います。

吉村:

我々は夏1回しか合宿をやってない。合宿にはお米を持っていった記憶があります。

野水:

受験参考書も持って行っていた。

小西:

私が思うに、部に入ると前後で10年くらいの年の人との繋がりができる。そういう人と話ができるというだけでも貴重なことです。

渡辺:

5年下の人とまでは一緒のコートに居た経験があるんだよね。この縦の結びつきを作って、それを繋げていくと良いですね。今日だって小西とは60年ぶりくらいだよな。でも会うとあっという間に昔のことを思い出すんだよね。

近藤:

人との繋がりがまた代々つながっていくということが、大切だよな。

4. バレー部の後輩たちには、何を指して欲しいか

吉村:

たまに練習を見たりするんですが、動きがバラバラだっていうか、そんな感じがする。だからワンテンポ遅くて良いと思う。ボールに跳び付いている感じがする。大学に入って全然違ったのは、HC だったんですが、「動くな」って言われた。動きすぎると中心が無くなる。だから一歩くらいしか動かなかった(9人制)。6人制のことはよくわかりませんが。アタックを打つのに強く打つだけでなく、フェイントも使って。ただ、打てなくてフェイ

ントってというのはだめなんだよね。自分で考えてやった方が良く。大学時に言われたことで、相手が打つ時に「スパイクのつま先の方向を見る」って言うんだよね。だから手は最後に見る。

野水:

私も高校・中学のバレーはほとんど見たことがない。開成のチームも見たことがないんですが、近ごろの大学だとか社会人だとかのバレーを見てるんだけど、やっぱりもっと頭使ってやったらいいんじゃないかなって思う。馬鹿じゃないかなと思うようなプレーがチラチラと見える。そこいらを考えると練習するなり、試合をするなりしてプレーした方がいいのでは。日本の選手はフェイントがへたくそで、初めからフェイントと分かるようなフェイントをやったり。あれだけ大きいんだから、打つ前にどこにブロックが来ているのを見て打てばいいのにとおもいます。まあ、スピードが早いから仕方がないのかもしれませんが。

近藤:

『チームワークのとり方』を体で覚えていくと、いろんなことで何かあった時に、感じ取れることがあるんじゃないかなと思う。チームワークのとり方を体の中に覚え込ませておくようになれば、バレーを離れてもそれが残っていくんじゃないかな。また物事を超えていくには、忍耐力が必要だと思う。スポーツやっていて、なかなかうまく勝てないとか、体が動かないとか、そういうのも普通の練習の成果で出てくるものです。そういうことを鍛えていくと、何をやってもそういうところでしか鍛えられないというものが身に付くんじゃないかなと思う。バレーの技術を高めるといって、そこまで真剣にバレーをやったことがないから、ちょっと言いにくいけど。

渡辺:

技術的なことは分からないので言えないけれど、人間関係を大事にしようじゃないかということで、大学に行ってからはずっとそれを通してきた。だから毎週練習に出てきている子は必ず試合に出してやった。それで自信を持たせる。へたでも毎週練習に出て行けば試合に出られるという希望を持たせてあげた。その代り、上手くても練習に出ない奴は試合場に来ても絶対試合に出さなかった。そういうやつが結構多かった。高校でそこそこやってきたやつで、とっとうまいやつがいた。でも成蹊のレベルでは、馬鹿にして練習しなくても大丈夫だと思って、練習来なくて試合だけ来るやつがいた。来る度にやつを試合に出さなかった。そいつは辞めないで、「なぜ出さないんだ」って言うから、「他の一生懸命練習している奴の身にもなってやれよ。途中からきて試合だけやろうとする、そういう結びつきはおれ嫌いなんだ。真面目に練習するやつを試合に出す。それが人間関係の最も強いきずなとなるんだ」と。成蹊ではずーっと人間関係だけしか言っていない。後輩に言いたいことはなるべく先輩たちと接して欲しい。そして人間関係を大事にしてください。

新井:

言いたいことは出尽くしたね。やっぱり大事なものはチームワークですよ。その時の同僚

と仲良くして、食事するとかいうことも大事なんじゃないでしょうか。気持ちの問題ですよ。気持ちの繋がりとか、そういったことです。

小西:

簡単なことなんです、心身ともに基礎体力を付けるという場にして欲しいと思います。私は夏の暑さはあんまり苦にならないんですね。夏場の暑い中で、合宿などをやったのがそのまま体質にしみ込んだのか、暑い所で仕事をしてあまり苦にならない。良かったなと思っています。基礎体力を養成する場として、バレー部を活用すると良いと思います。

進藤:

私達は卒業50年のときに文集を作ったんですが、その時運動部にいた人が書いているのは、ほとんどが運動部を通して作った人との結びつきの大切さ。社会人になって感じた、人との結びつきの大切さ。それが運動部では、知らず知らずのうちに身に沁み込んでいるということです。開成というところは、割合クラブ活動が盛んで、たいいていの人は何某かのクラブに入っている人が多いと思うのですが、そういう意味で、バレー部に限った事ではないのですが、運動部で培われたもの、それはゆくゆく社会人になってからも役に立つということ、今はわかんないかもしれないけど、そういうことがあるということ、先輩方の言われた「チームワーク」の大切さを感じてもらえたら良いかなと思います。

司会:

今日は貴重なお話をありがとうございました。バレー部がどうやってできたのか、そして当時どんな練習をしていたのか、ということも垣間見ることができました。これを文章にまとめて、創部70周年の時にできれば「開成バレー部70年の歴史」のような形の冊子にして、後の世に伝えていきたいと思います。

宮:

本日は貴重なお時間をありがとうございます。開成バレー部も現在存続していますが、皆様がバレー部を起こしていただかなければ、存続していないので、先輩方が草創期にご苦労しながらやってこられたことが、今どのくらい引き継がれているかわからないんですが、どなたかさっきおっしゃっていましたが、ご飯食べたらバレーがやりたくってしょうがないという子が今でもバレー部に居りますので、そういう気持ちは今も変わらずに続いているのかなと思います。もしよろしければ、まだ体育館で練習しておりますので、見て一言でも叱咤激励していただいて、繋がりを感じられればな、と思います。本日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

